

② 北鎌倉幼稚園 1948(S23)～

〈園の沿革〉

戦後、人心の虚脱と混迷の社会環境の中で、地元の人々が幼児の将来を案じ、円覚寺で幼稚園を開設してほしいとの要望があり、浄智寺朝比奈管長を始め円覚寺各住職や地元の有志諸氏が、たびたび円覚寺で会議を開き協議を重ねた結果、幼稚園を開くこととなった。朝比奈管長が設置者となって名称を「北鎌倉幼稚園」とし、直ちに県に申請して1947(S22)年12月知事の認可を得、翌48年4月開園のはこびとなった。さしあたり学生や一般の禅道場である「居士林」を借り、内部を改造して保育を始めた。

初代園長に東慶寺井上禅定が当たり、教諭2名、園児は60名であった。井上は、開設当初より経営や保育のこと、園歌のこと、父母の会組織のことなどに尽力し、円覚寺各住職、地元の有志各位も協力して内容も整ってきたが、長く居士林を借りることもできず、園舎の建設や敷地の問題に関係者一同頭を悩ま

せていたところ、幸い朝比奈管長と親交のあった東京世田谷烏山病院院長の森崎半次郎から園舎の寄進が受けられることになり、4年後の1952(S27)年、現在地(山ノ内 483)に園舎が落成した。

以来、人数の多い時にはお堂を使用したりプレハブ園舎を建てたりなどしてきたが、老朽化してきたこともあり、防災対策や衛生面を踏まえ、1992(H4)年に新園舎が同じ場所に建てられ、現在に至っている。

〈保育方針と特色〉

禅による情操の躰を保育の中心とし、いわゆる小学校予備校的な読み書きを教え込むのではなく、どうしたら楽しい集団生活ができるかを考え、愛情と信頼に基づいたコミュニケーションを小さい子どものうちに作って行くことを目標としている。

個人の幸福と集団の幸福との調和を求め、

- ①毎朝、読経・瞑想を行ない、ものに動ぜず正しく物事を見たり聞いたり実践できる落ち着いた態度(判断力)を養う。

②善いことは見習い、悪いことは真似しないという約束を守り、集団生活の中でくじけず強く、勇気と自覚を持った協調心(社会性)を育てる。

③戸外保育で日当たりのよい園庭から富士山を望み、身近な自然と親しみ、健康で明るい心身を鍛え、豊かな愛の心(親切な心)を培う。

以上 3 つの人間形成の大本になる態度の育成に心がけ、教諭も園児も信頼しあって楽しく精進している。



緑に囲まれた現在の園舎（北鎌倉幼稚園提供）